

# 令和6年度 後期学校評価アンケート結果分析

京都市立開晴小中学校

後期学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。アンケートの集計結果につきまして、項目ごとに以下にまとめております。「実現度」の低い項目については、今後の課題と受け止め、優先的に取り組みを進めてまいります。

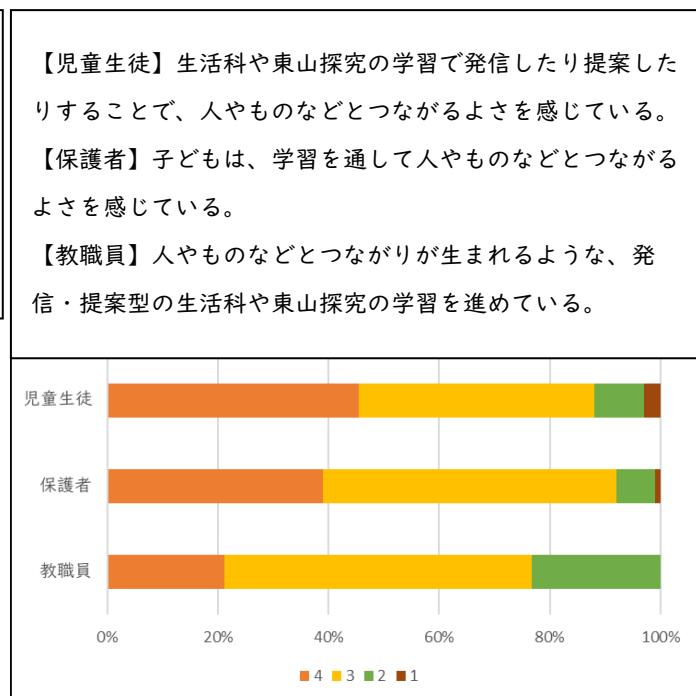
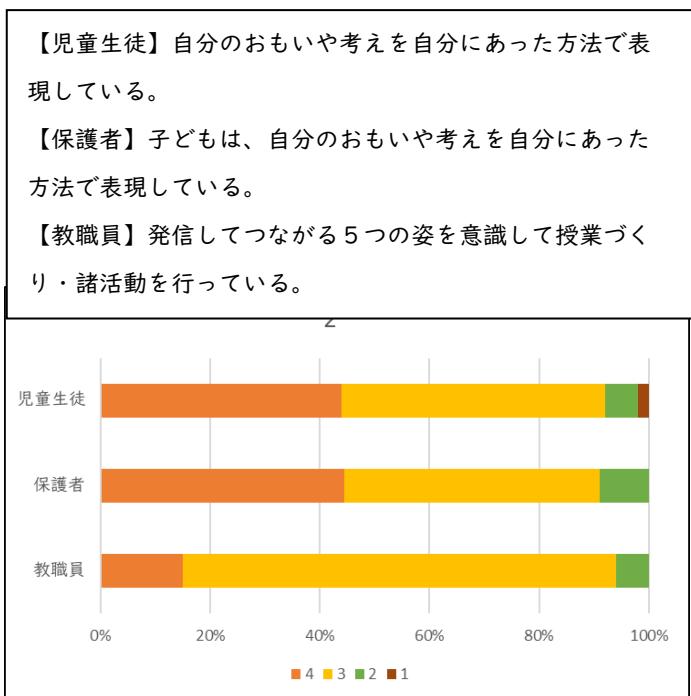
また、自由記述欄につきましても、様々なご意見を頂戴いたしました。すべて保護者の皆様の貴重なご意見として受け止めさせていただきます。ただ、頂戴したご意見は多様で、そのまますべてを実現することは出来かねますこと、ご容赦いただきますようお願い申し上げます。アンケートには書ききれなかつたご意見等がございましたら、電話や学校メールにてお聞かせくださいますようお願いいたします。

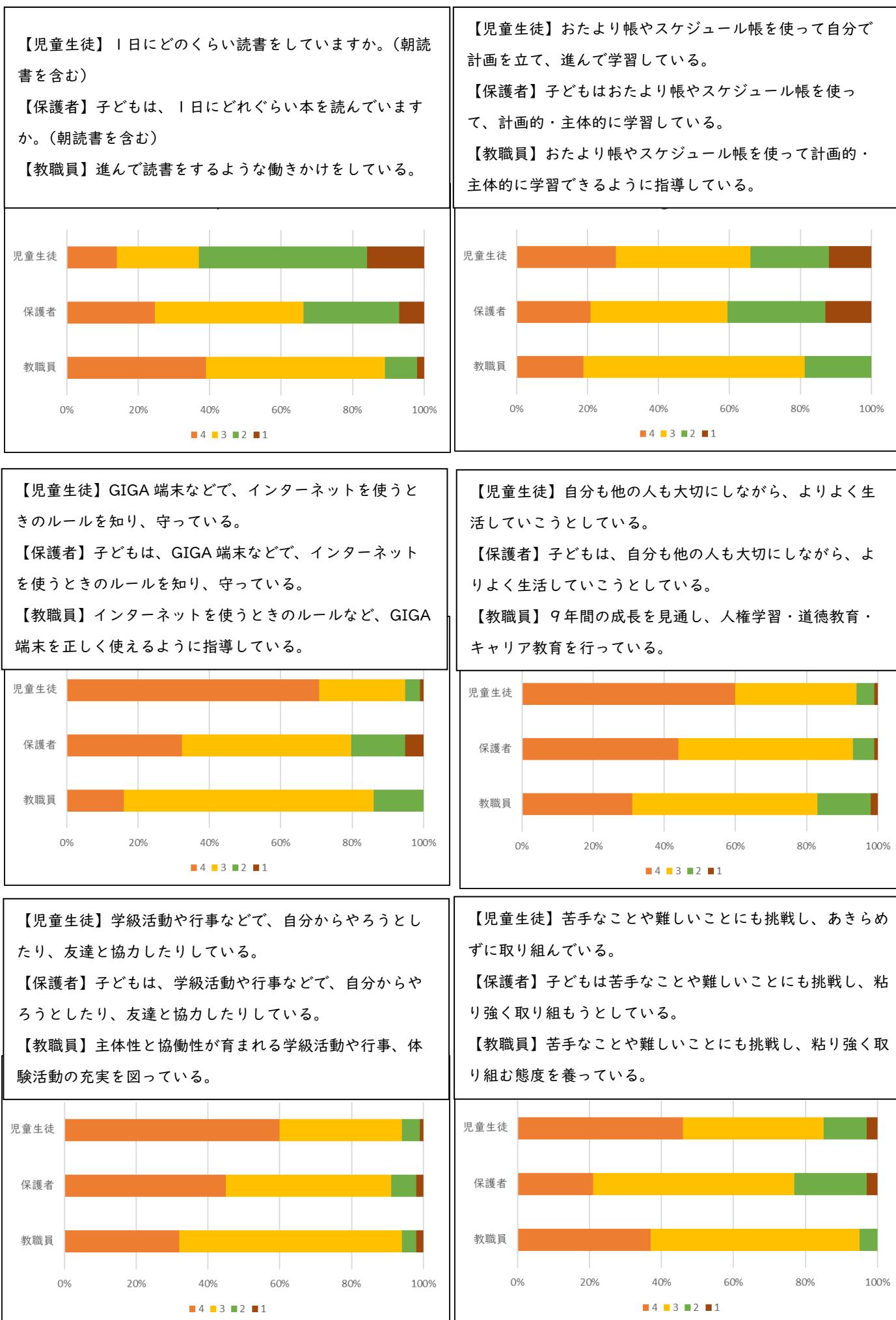
なお、この結果につきましては学校運営協議会理事会の皆様にも供覧し、ご意見をいただいた上で、本年度後期の結果として報告いたします。

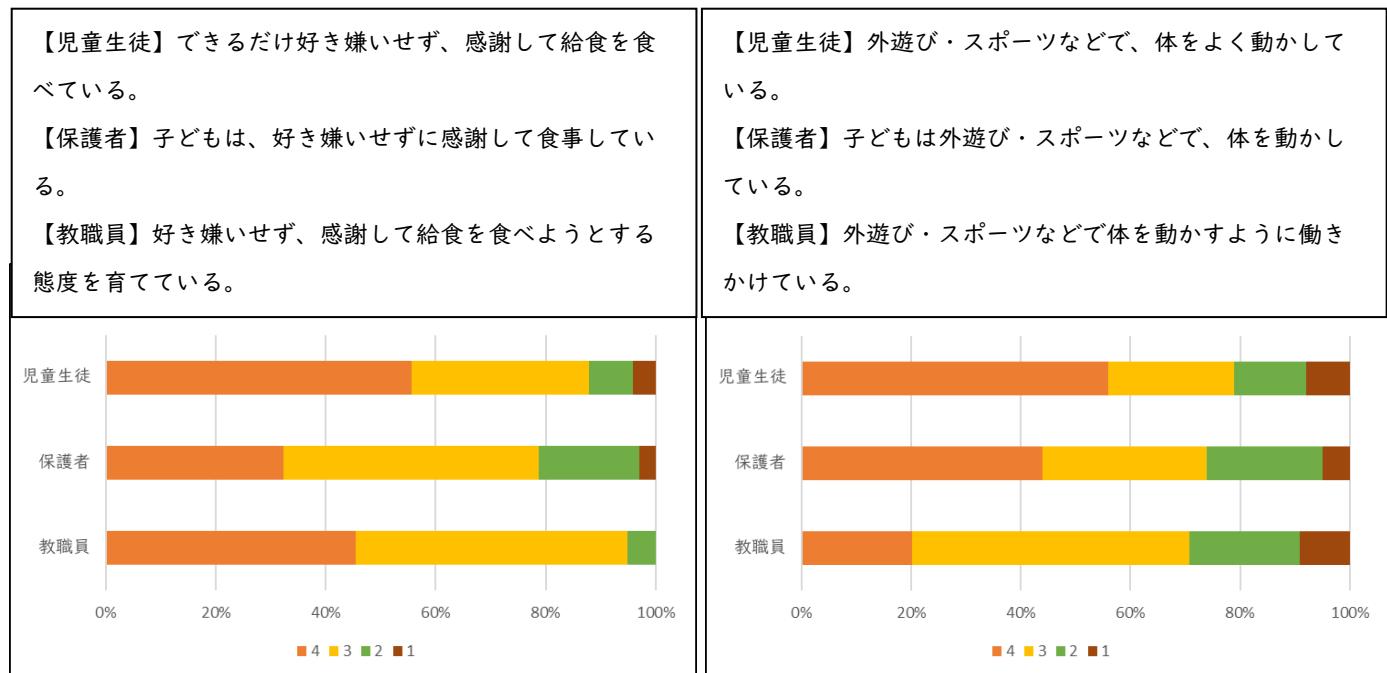
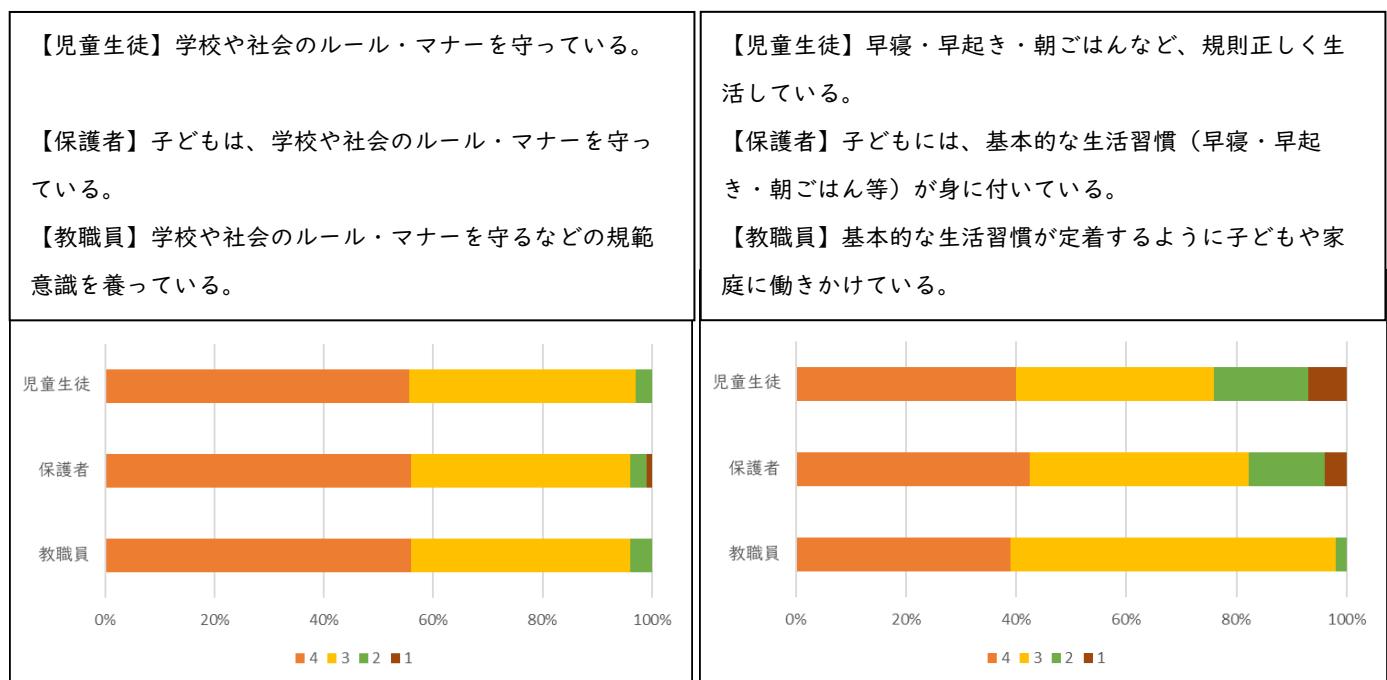
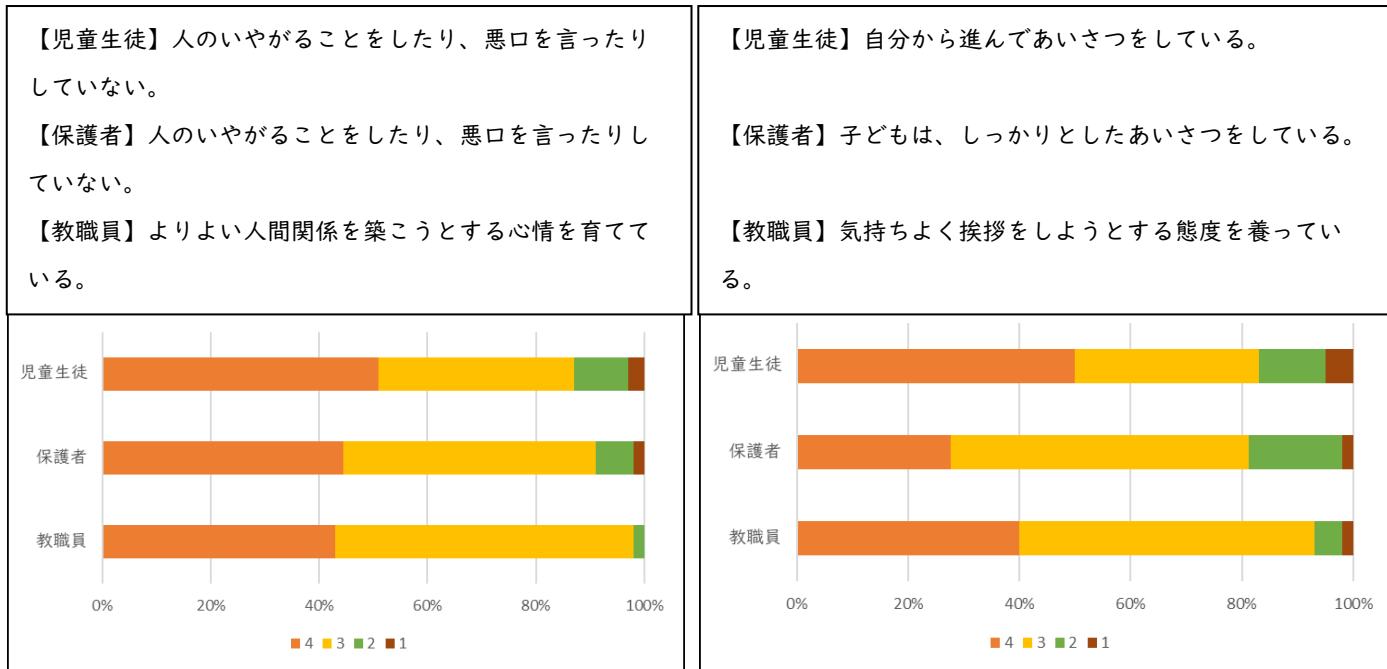
## 令和6年度後期 児童生徒、保護者、教職員アンケートの結果

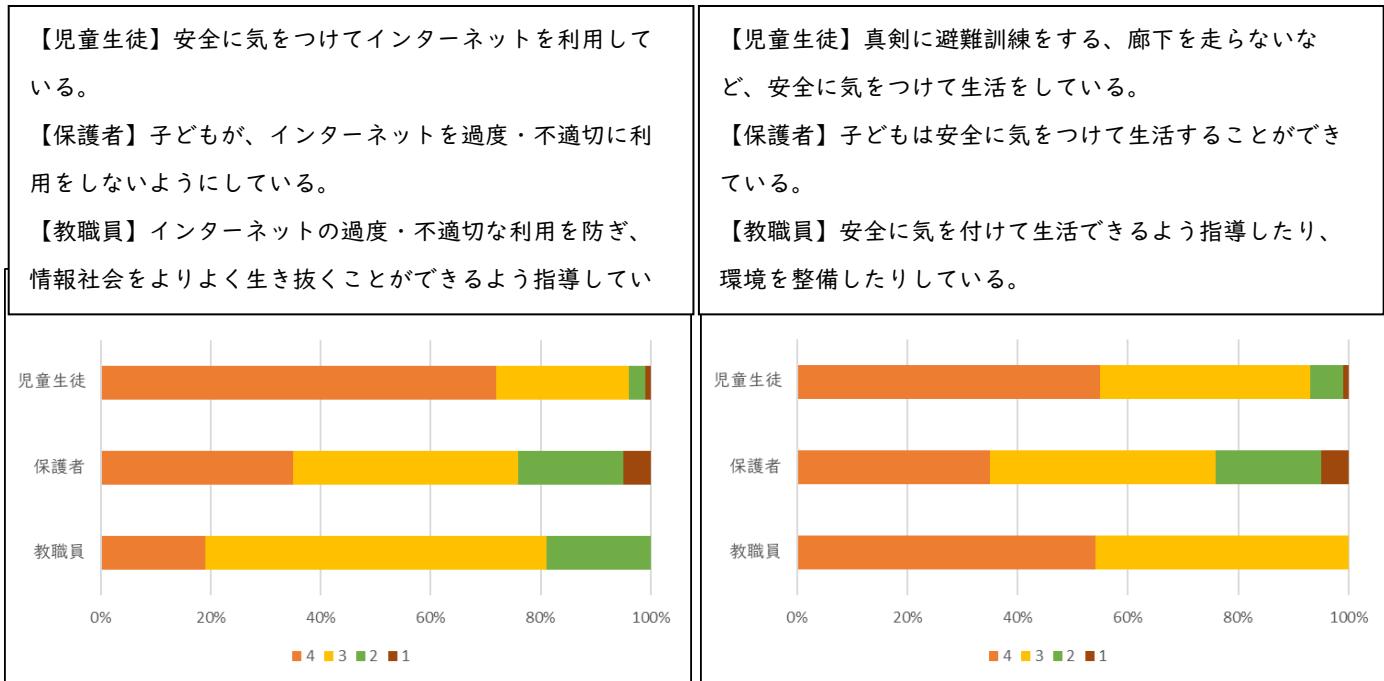
### グラフの見方

横軸の帯の色は左から4「そう思う、できている（オレンジ）」、3「ややそう思う、ややできている（黄）」、2「ややそう思わない、ややできていない（黄緑）」、1「思わない、できていない（茶）」を表している。また読書量の児童生徒及び保護者の項目では、4「1日に1時間以上（オレンジ）」、3「1日に30分くらい（オレンジ）」、2「1日に10分くらい（黄緑）」、1「読んでいない（茶）」を表している。









## 令和6年度後期学校評価アンケートの結果より

### 知 確かな学力に関わって

今年度教職員は、「発信してつながる5つの姿」を意識して取り組んできました。児童生徒のアンケートでは、92%の児童生徒が「自分のおもいや考えを自分にあった方法で表現している」と回答し、前期の89%からわずかに増加しました。しかし、一部の児童生徒には自己表現の方法が限られている姿も見られます。自分のおもいや考えを効果的に発信できるよう、より多様な表現方法を学ぶ必要があります。また発信するだけでなく、「生活科や東山探究の学習で発信したり提案したりすることで、人やものなどつながるよさを感じている」と回答した児童生徒の割合も前期の85%から89%に増加しました。今後も児童生徒が、自分たちの思いや考えを伝えあうことで、他者や社会とのつながりが感じられる豊かな学びを実現できるよう授業改善を行っていきます。一方で、「GIGA端末などで、インターネットを使うときのルールを守っている」と回答した児童生徒の割合は、前期の94%から後期のわずかに減少しました。ルールを守る意識は高い一方、具体的な安全対策についての理解が不足している場合が考えられます。引き続き情報モラルやメディアリテラシーの育成強化を図っていく必要があると考えます。

### 徳 志に関わって

2学期より教職員は体育祭文化祭、1st開晴フェスティバルなどの行事やたてわりなどの取組等で児童生徒のつながりを意識した取り組みを重点的に進めてきました。後期のアンケートでも、主体性と協働性が育まれる学級活動や行事、体験活動の充実を図っていると回答した教職員の割合が前期よりも増加しています。児童生徒のアンケートでも「学級活動や行事などで、自分からやろうとしたり、友達と協力したりしている」と回答した児童生徒の割合が増加しました。また、94%の児童生徒が「自分も他の人も大切にしながら、よりよく生活していこうとしている」と回答し、前期から引き続き他者への配慮や思いやりの心が育まれていることがわかります。しかし、「苦手なことや難しいことにも挑戦し、あきらめずに取り組んでいる」と回答した児童生徒の割合は、前期の84%からほぼ改善がみられません。今後更に挑戦する意欲を持続させるための支援を行う必要があると考えます。

## 体 健やかな体に関わって

児童生徒のアンケートでは93%の児童生徒が「真剣に避難訓練をする、廊下を走らないなど、安全に気をつけて生活をしている」と回答し、前期の88%から増加しました。多くの児童生徒が安全を意識しようとしていることが分かります。一方で、「できるだけ好き嫌いせず、感謝して給食を食べている」と回答した児童生徒の割合は、前期の87%から後期の82%に減少しました。バランスの良い食生活は健やかな体づくりに欠かせません。食べられるものや量は一人一人違いがありますので、個々に寄り添いながら食指導を行っていきます。

保護者自由記述欄にお寄せいただきましたご意見より（表現の一部を修正・省略しています。ご容赦ください。）

学校で学んだり、友だちや部活の先輩とふれあったりする中で感じたことを、自分の経験などと結びつけて「そういうことか。」と考えを深めています。

先日の植松努さんの講演会も、両親ともに参加させていただき、家族で話し合うことができました。子どもだけでなく大人も学びのある素晴らしい講演会でした。これからの中を創る大人の役割は、まず自分自身も学び、子どもと共に楽しみながら次の時代を創っていくことだなと思いました。

運動会の玉入れ競技で、1～9年生が一つのことを一緒に取り組む光景はとても感動しました。低学年は必死に上を向いて、高学年は後方から照れながら投げる様子がなんとも微笑ましく、9年制ならではの貴重な体験になったと思います。このような異学年との行事をこれからも是非お願いしたいです。

最近給食を食べられるようになってきましたが、時間内に食べられない子にもっと配慮してほしい。

通学リュックが重く、部活の道具等が多い時には肩に食い込んでいるので心配です。

学校運営協議会理事の皆様のご意見より（表現の一部を修正・省略しています。ご容赦ください。）

始めは読書100冊という目標があるのはよいが、学年が上がるにつれて主体的に読書に向かえることが理想だと思う。

先生に余裕があることが大事。子どもとじっくりと向き合ったり、たくさんの大人が関わったりするなどよい影響が出る。会議の整理、部活動の地域指導員の協力などは大事だ。

今の子どもたちは調べたこと、学んだことをまとめて発表することがすごく上手にできていると思う。しかし、自分の考えや意見を発信することを怖がっているようだ。多数の意見にすぐ流れているのではないか。周りに気を遣って、相手を傷つけることを避けているように思う。

年度の初めは指を使って計算していた子も、年度の終わりにはしっかり計算できるようになっている。苦手なことや難しいことはすぐには克服できないが、保護者もそれを認めてあげてほしい。

ピア給食はとても素敵な取組なので復活して嬉しい。食の多様性という面で給食の役割は大きい。小さい時ほど味覚の発達に大きな影響があると思う。

いじめや非行防止に特効薬はないが家庭・学校・地域が連携することが必要。子どもの道徳観を地道に高めていきたい。